

「マリアの賛歌」

2015年04月07日

ルカによる福音書 1章46節～56節。そこで、マリアは言った。「わたしの魂は主をあがめ、／わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。主はその腕で力を振るい、／思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、／身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。その僕イスラエルを受け入れて、／憐れみをお忘れになりません、わたしたちの先祖におっしゃったとおり、／アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った。

マリアはエリサベトの祝福を受け、賛歌（マグニフィカート）を歌う。「マリアの賛歌」は信仰とは何であるか、主イエスの福音は何であるか、神の約束は必ず成就すると三点を歌っている。

マリアはまず、私の魂は主を崇め、私の霊は救い主である神を喜び讃えりと賛美する。信仰は神賛美から始まる。その神賛美は自分の低さを認識させる。マリアは自分を「主のはしため」と言っている。神は身分の低いのはしためにも目を留め、用いてくださると喜ぶ。神は、身分の低い私を通して救いを成し遂げてくださるから、代々の人々は私を幸いな者と言うでしょう。神のみ名は尊く、憐れみは限りなく、主を畏れる者に及ぶ。偉大な神と小さな人間が結ばれ、そこに救いがあることを認めることが信仰である。マリアは、この信仰の原点を歌っている。

次に、主イエスが示された福音の核心を歌っている。「主はその腕で力を振るい、／思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、／身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。」人間の世界は常に、権力や富を持つ者が高慢に君臨し、支配し、良き物で飽き足りている。主イエスは高慢な者を打ち砕き、富裕者を低く貧しくする。一方、身分の低い者を高く上げ、飢えた人々を良い物で満たしてくださる。福音書に描かれている主イエスは権力を持つ者、偽善に走る者を激しく弾劾している。そして、飢え渇き、貧しく、病む民衆に限りない愛を注いで、神に祝福された者として「生きよ」と神の国を目に見える形で示された。民衆は主イエスの言葉と業に神の恵みを見て、喜んだ。主イエスの生涯は人間の作る価値の逆転であった。それは神に是認された生を互いに尊び、喜び合うことであり、逆に、生を否定する力への怒りであった。ここに、福音の本質がある。ルカは、これから記す主イエスの生涯を、この視点で読むようにプロローグに認めたのである。信仰は神を問うことであるが、それは人間の生のあり方を問うことである。人間の尊厳が保証されるところに、愛の神が臨在される。

またマリアは、アブラハムに約束した憐れみを、神は忘れることなく成就してくださると歌う。教会は霊的にアブラハムの子孫、末裔である。私たちは憐れみの中に置かれている。だから、この救いの事実を証し、隣人と共にあろうと、体を前に伸ばすのである。

マリアは3ヶ月ほどの後、喜びと感謝に満たされ自宅に帰った。